

兵庫県下に於ける ミヤマカラスアゲハの変異 について

広畑 政己

日本に於けるミヤマカラスアゲハは、北は北海道から南は屋久島に至るまで広く分布し、地域、個体によって非常に変化に富んでいる。寒冷地のものは、暖地のものと比較すると小さく、九州、四国などの個体は大きい。特に第3化のものは巨大なことで知られている。翅表の鱗粉についても、地域、個体によって著しく差が現れ、前後翅表面の外縁に沿う黄緑色、青緑色、後翅裏面の黄白帯がよく発達したもの、消失したものなど様々なバリエーションが見られ、中には一見カラスアゲハと錯覚するようなものまである。傾向としては、寒冷地のものは黄緑色、青緑色、黄白帯が強く現れる個体が多く、暖地のものほど弱いと言える。しかし必ずしもこの通りではない。



Fig.1

兵庫県下に於けるミヤマカラスアゲハの分布について筆者の知る範囲では、相生市、姫路市、飾磨郡、朝来郡、宍粟郡、神崎郡、養父郡、城崎郡、多紀郡、美方郡、水上郡、西脇市、神戸市などの産地があるが、その変異については次のように記されている。春型は青緑色が美しく、裏面黄白帯は太く鮮明な個体もあれば、半ば消えたものもある。しかし全く消失した個体は見当たらない。夏型

では、後翅裏面の黄白帯が消えやすく、完全に明瞭なものもあれば、全く認められないものもある。

筆者が1975年5月18日に、宍粟郡波賀町音水にてミヤマカラスアゲハの雌を採集、採卵、飼育の結果、6月25日～7月1日にかけて、19♂、8♀が羽化した。それによると、前翅表面の黄緑色は全般的に弱く、後翅表面の青緑色の帯については、鮮明に現れているものは10例、わずかながらあるもの8例、ほとんど消失したもの9例があった。また、後翅裏面黄白帯については、北海道、東北などの寒冷地に見られる太く鮮明な個体はなく、かなり鮮明に現れているもの(Fig.1)から消失したもの(Fig.2)まで様々であった。後翅表面の青緑色の帯が鮮明に現れている個体は、裏面の黄白帯も鮮明に現れるという結果が得られ、後翅表面青緑色帯の例とはほぼ同じ結果がでた。しかし黄白帯が全く消失した個体は2例となっている。翅表の黄緑色の散布と弦月赤紋は、対島産に於てよく



Fig.2

発達するが、音水産の飼育例については、弱く不明瞭でもある。

前記は、夏型飼育標本による変異でもあり自然状態と多少異っているかも知れない。

*参考文献

山本広一：兵庫県下のミヤマカラスアゲハについて
1) 兵庫生生物

藤岡知夫：日本蝶類大図鑑 講談社
播磨舞友会：兵庫県産蝶類分布図 ひろおびNo.1

(S. 28: 姫路市)